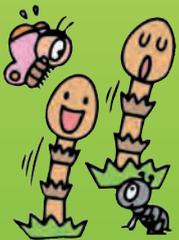


つくば子育て環境アップ 保育士訪問事業

記 録 誌



〈主 催〉
社会福祉法人 花畑福祉会
〈事 業 名〉
子育て支援アウトリーチ型事業

〈後 援〉
茨城県社会福祉協議会
つくば市
つくば市社会福祉協議会
つくば市民間保育園協議会



※この事業は、独立行政法人福祉医療機構助成事業〈平成21年度子育て支援基金事業〉からの助成を受けて、平成21年4月1日から平成22年3月31日の間に実施されました。

目次

①はじめに	1
②事業の主旨・内容	3
③訪問相談で気をつけた事	5
④訪問相談一覧表	6
⑤訪問相談事例	9
⑥報告A 離乳食開始から完了まで (相談者：6ヶ月の子を持つ母親)	10
報告B トイレトレーニング方法 (相談者：2歳1ヶ月の子を持つ母親)	12
報告C 卒乳の仕方 (相談者：11ヶ月の子を持つ母親)	14
報告D 子供とのかかわり方 (相談者：3歳の子を持つ母親)	16
報告E 言葉の発達 (相談者：2歳3ヶ月の子を持つ母親)	18
報告F 生活全般 (相談者：1歳1ヶ月の子を持つ母親)	20
報告G 食事の仕方 (相談者：11ヶ月の子を持つ母親)	22
報告H 気になる成長 (相談者：2歳9ヶ月の子を持つ母親)	23
⑦保育士訪問事業を終えて	25
⑧おわりに	27

はじめに



近年、メディアなどで少子化・核家族化問題が指摘される中、国の子育て支援対策も少しずつではありますが各地域に浸透し始め、子育て支援の拠点となる支援センター等も多数開園し、子育てに奮闘する保護者は子育てしやすい環境が整いつつあります。

しかし、様々な社会情勢や家庭環境の変化の中、国の子育て支援事業だけでは、個々の末端までは支援しきれずにいるのが現状です。そのような中、本法人が単独で今まで実施してきた地域子育て支援(応援)事業(平成17年度から)の利用者状況をみてみますと、“育児の相談をどこにしていかわからない”という孤立した意見が多数ありました。この率直な意見等を受け止めてあげたいと思い、1対1(アウトリーチ)の質の高い支援が必要だと感じ、保育士訪問事業を実施するに至りました。すると家庭からの小さな叫びが聞こえてきました。共に寄り添い、理解できる人の役割を保育士が担ってあげたいと思わずにはいられませんでした。今後も本事業を継続できるよう社会福祉施設の一員として関わっていけるように努めていきたいと思えます。

この事業を通じて1人でも若い保護者が「子育てを楽しく感じてもらえる」ようになれば幸甚です。

社会福祉法人花畑福祉会
理事長 古谷野 福子

= 姉妹法人 =

- ・学校法人 古谷野学園・学校法人加波山学園・認定こども園星の子ランド
- ・社会福祉法人緑の郷福祉会

事業の主旨・内容

〈趣 旨〉

子育てに関する相談等を、希望する保護者宅へ「専門職の保育士」が訪問し、子育ての孤立や育児不安の軽減を目的とします。

〈相談内容〉

- ・子育てに関する相談
- ・出産前後や産褥期不安など
- ・遊び方
- ・しつけ（躾）
- ・絵本の読み聞かせ
- ・年齢の発達について
- ・トレーニング方法（トイレ、食べ方、おむつ、着替え、手洗い、ハミガキ）
- ・乳幼児の食事（食育、離乳食、幼児食、好き嫌いについて）
- ・歌遊びや子守唄の紹介
- ・子どもとの関わり方
- ・あやし方 等

※遠慮なくご質問や相談して下さい。わかる範囲で丁寧にお答えいたします。

個人情報取り扱いについて

当法人は、相談いただいた個人情報を下記に従って適切に実施します。

- 個人情報を次の目的で利用します。
 - (1) 本事業の実施
 - (2) 育児相談の実施
 - (3) 相談資料等の送付
 - (4) 個人を識別できない形式の統計情報としての利用
- 相談者の承諾なく個人情報を第三者に提供しません。

訪問保育士が気をつけた事

◎電話対応の心構え＝良く聴く

- ・かならずと言っていいほど、確認をする言葉が第一声なので、「どうしましたか？」と静かにゆっくりと答える。
- ・相談者の話をよく聴き、メモを取りながら不安や悩みの問題解決の糸口を見つけ、丁寧に対応する。
- ・アドバイスをする時には、伝え方に配慮する。（指示的な言い方は控える）
- ・訪問希望日を伺い、後日「日程を確認してからご連絡します。」と伝える。

<注意する事>

自分の子育て論や、経験を話しすぎてしまい、相談者の本題を見失わない。

◎訪問時の心構え＝笑顔で訪問

- ・訪問する場合、2人対応が望ましい。
- （1人は子どもと対応、もう1人は親とゆっくり相談できる環境をつくる）
- ・相談者の立場を理解して、自分のことを話せるよう雰囲気づくりをする。
- ・短い時間でも、相談者のニーズをしっかり受け止めて相談する。
- ・共感的理解があった時には、相談者に伝える。
- ・アドバイスをする時には、指示的な言い方は控える。
- ・1対1の大切さや、信頼関係をいつも心掛けている。
- ・子どもと目を合わせ、言葉をかけたりスキンシップをとりながら、楽しく遊ぶ様子を相談者に見てもらおう。
- ・その場で解決できない問題があった時には、園に持ち帰り後日回答する。
- ・緊急連絡確保のため、携帯電話を持参する。

<注意する事>

相談者の表情に注意しながら、日常会話を意識してコミュニケーションをとる。

訪問相談一覧表

		訪 問			電 話
月	件	相談内容	件	相談内容	
5月	1	・離乳食について ・日常の不安	2	・トイレトレーニング方法 ・言葉の遅れ・他児を叩く	
6月	3	・トイレトレーニング方法	2	・食事の好き嫌い	
		・離乳食について ・友達とのかかわりが苦手		・赤ちゃんがえりをどう受け止めたらいいのか	
7月	3	・離乳食の進め方	3	・突然かんしゃくを起こす	
		・離乳食から大人食への移行		・トイレトレーニング方法	
		・トイレトレーニング方法 ・遊び		・(熱があり) かかりつけの病院が休みでどうしたらよいか	
9月	2	・トイレトレーニング方法			
		・離乳食から大人食への移行			
10月	4	・公園に行くと砂場の砂を頭にかける ・手をつなぎたくない。	5	・両親の教育方針の違いで悩んでいる	
		・子どもに厳しい言葉を言うってしまう		・落ち着きがない	
		・弟とのかかわりが難しい		・言葉の遅れ	
		・トイレトレーニング方法		・社宅の方とのトラブルで悩んでいる	
		・言葉が遅い		・集団活動ができない	
		・もうすぐ1才になるが、ほとんど母乳でお粥しか食べていない		・トイレトレーニング方法 ・兄弟との関わり方	
11月	3	・他の子とは遊ばない	6	・座って絵本や紙芝居が見られない	
		・言葉が遅い		・食が細い	
		・母乳がなかなか離れない		・食事の仕方	
		・いろいろな物に興味を持っていたずらする		・きき手を知りたい	
		・言葉が遅い 「専門機関に行ってもらっても…」 と言われショックを受けた		・友達とのかかわり方 ・着脱を少しずつ頑張っている	
		・トイレトレーニング方法		・トイレトレーニング方法	
12月	3	・離乳食から大人食への移行	1	・母乳のやめ方	
		・生活リズムの乱れ			
		・離乳食から大人食への移行			
		・危険防止どうしたらいいか			
		・友達とのかかわり方			
		・眠くなるとぐずってしまう			

訪問相談一覧表

		訪 問			電 話
月	件	相談内容	件	相談内容	
1月	7	・友達とのかかわり方	4	・トイレトレーニングが進まない	
		・トイレトレーニング方法		・保育園を考えている	
		・トイレトレーニングの時期、方法		・排便は失敗しないのに排尿がしばしば失敗してしまう	
		・排泄の場所で困っている		・生活リズムについて	
		・指しゃぶりのとり方		・食事の仕方	
		・落ち着きがない		・公園での遊び方	
2月	12	・トイレトレーニング方法	1	・新生児の便秘	
		・赤ちゃんがえりでトイレが不安定になってしまった			
		・しつけについて			
		・幼稚園等について			
		・幼稚園の2年保育と3年保育の違いについて			
		・くつ下が嫌いですぐ素足になってしまう			
		・おもちゃを両手で持っていて困る			
		・しつけの仕方			
		・卒乳の時期・方法			
		・友だちとのかかわり方			
		・歯の生え方について			
		・落ち着きがない			
・食べる量について					
・卒乳の仕方					
・トイレトレーニングの時期と仕方					
・かかわって遊ぶ					
・親の不安					
3月	4	・トイレトレーニング方法	1	・卒乳の報告	
		・食事の様子を見学する			
		・かかわって遊ぶ			
		・食事の仕方			
		・哺乳ビンのとり方			

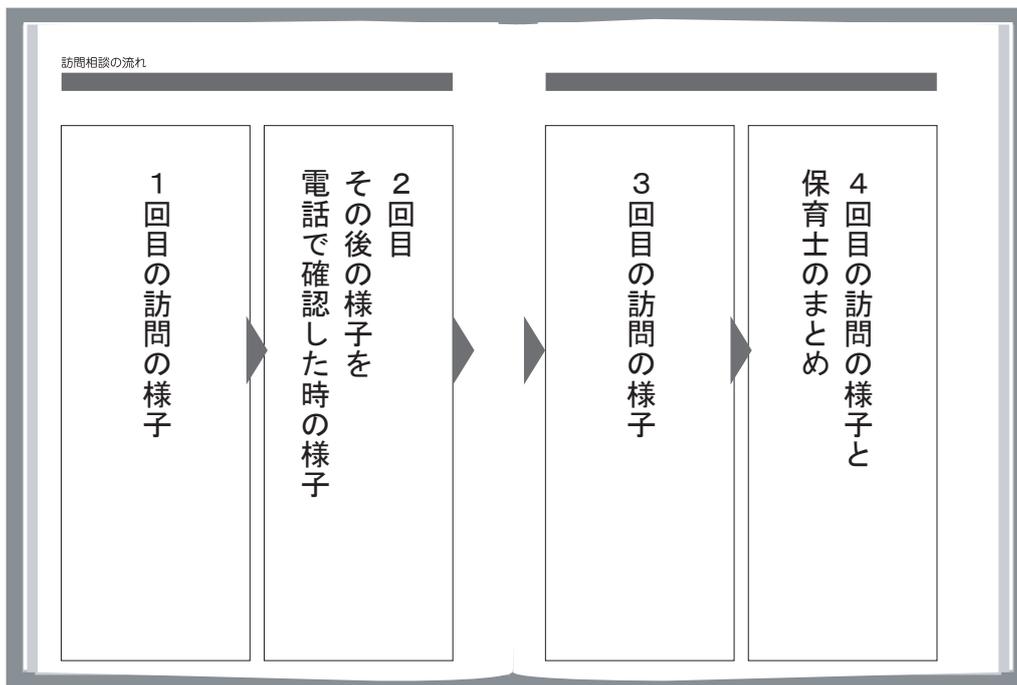
訪問事業 合計 42件

電話相談 合計 25件

訪問相談事例

A)	離乳食開始から完了まで (相談者：6ヶ月の子を持つ母親)	10
B)	トイレトレーニング (相談者：2歳1ヶ月の子を持つ母親)	12
C)	卒乳の仕方 (相談者：11ヶ月の子を持つ母親)	14
D)	子供とのかかわり方 (相談者：3歳の子を持つ母親)	16
E)	言葉の発達 (相談者：2歳3ヶ月の子を持つ母親)	18
F)	生活全般 (相談者：1歳1ヶ月の子を持つ母親)	20
G)	食事の仕方 (相談者：11ヶ月の子を持つ母親)	22
H)	気になる成長 (相談者：2歳9ヶ月の子を持つ母親)	23

事例の見方



相談者：6ヶ月の子を持つ母親

< 訪問相談 1 回目 >

離乳食の始め方

Q



5ヶ月で離乳食をはじめたいのですが、どのようにはじめたらいいのか、何を食べさせたらいいのか、味付けはどうしたらいいのか教えてください。



A



体調のいい時に、午前中1日1回から始めましょう。

スプーンに慣れることも大切なので、果汁やおも湯からはじめて、野菜などは素材の味で離乳食作りをするといいですね。家族にアレルギーの方がいるかどうか、確かめてから離乳食をはじめてください。

< 経緯と助言 >

食べる時に抱っこして食べさせていいのか聞かれ、食事をする習慣をつけるためにも、椅子に座って食べることを勧めた。まだ、椅子もない様子なので、年齢に合った椅子を選ぶようにアドバイスをした。

スプーン一杯からはじめて、野菜のつぶし食やお粥・パン・麺類などから、次にきざみ食になり、大人食へと離乳食の流れがあることを伝えた。味噌汁を作る時に、野菜をたくさん入れて調味料を入れる前に取り出せば、つぶして離乳食に使えるので、簡単に離乳食が作れることを知らせた。あせらず離乳食を進めていくことを伝えた。

< 保育士の感想 >



電話では不安そうだったが、実際に訪問してみると真面目で一生懸命子育てに取り組んでいる姿が見られた。

「離乳食」と頑張らずに、一緒に食べる楽しさも倍になることを伝えると笑顔になった。会って話しをすると、いろいろなことが詳しく聞くことができた喜んでいた。

相談者は、子どもに対する知識が少ないことに気づいた。

< 電話相談 2 回目 >

突然の発熱

Q



現在38度(平熱36.8度)の熱があり、かかりつけの病院が休みで別の病院に行った方がいいのか?今、半袖・半ズボンでいるが、このまま病院に行ってもいいのか教えて欲しい。

A



熱が上がっているので病院で診察を受けることを勧めた。心配なら、次の日にもかかりつけの病院でみてもらってください。

< 経緯と助言 >

かかりつけ以外の病院に行くのが心配だったようだが、熱が上がっていたので他の病院で診察を受けるように勧めた。また、熱がこれから上がる可能性があると思った。どうしても心配なら、次の日にかかりつけの病院に行ってもいいのではと話した。

病院は涼しくなっている所もあるので、羽おる物を持って行くとよいと伝えた。心配なことがあったら、いつでも連絡してほしいと伝えた。

< 保育士の感想 >



本当に相談する人が身近にいないことを確信した。

< 訪問相談 3回目 >

フォローアップミルクの活用

Q  10ヶ月になったら、フォローアップミルクに変えたほうがいいですか？
どうしてミルクを変えるんでしょうか？教えてください。
離乳食は順調です。

A  成長に合わせてミルクも変わります。フォローアップミルクには離乳食完了に向けて、成長期に必要なとされている栄養素が含まれていますので、ミルクで補うことも大切です。はじめは、スプーン一杯から徐々に量を増やしていけば、お子さんも驚かずにスムーズにいくと思います。離乳食の後にミルクを飲む状況にするといいでしょう。

< 経緯と助言 >

フォローアップミルクは飲むばかりでなく、おやつや料理などにも活用できることを伝えチャレンジを勧めた。

離乳食のことを聞いてみると、後期食ではなく、以前訪問した前期食のアドバイスのままだだったので驚いた。歯もたくさん生えてきているので、柔らかく形のある物で噛むことを覚えなくてはいけないので、大きさを伝え、噛むことで満足感を味わえることを伝える。

< 保育士の感想 >

 電話では離乳食は順調だと話していたが、訪問して詳しく聞いてみると前回の離乳食からあまり変化がなかった。工夫することが苦手な相談者だったので、今回はいろいろな事例を話して興味をもたせ、楽しく子育てができるように言葉かけをした。
前回の訪問でアドバイスしたにもかかわらず、子ども用の椅子が用意されていなかった。

< 訪問相談 4回目 >

離乳時の食事

Q  食事の仕方や哺乳瓶は、いつまで使っていたらいいのか教えてください。

A  だいたい1歳くらいを目安に、哺乳瓶とさよならできるということです。急にやめるのではなく、回数を減らしコップで飲むようにしていきましょう。コップを使うとたくさん飲めることがわかっていきます。

< 経緯と助言 >

ミルクをコップで飲むのに時間がかかったが、1日1回からはじめ訪問した時は1日2回になっていたので、無理せず続けていくことを勧めた。

抱っこして食べさせていたようなので、食事は椅子に座り、ひとりで食べることも大切なことを伝え、こぼして食べても意欲を認めて、後半は手伝ってもいいと話した。食事の時の挨拶も大切なので、一緒にすると真似をして覚えていくので、続けていくように伝えた。スプーン・フォークは年齢に合っていた。

相談者が赤ちゃん扱いしていたので、生活習慣の見直しをした。

< まとめ >

 アドバイス通りに実行する真面目な相談者なので、言葉を選びながら、できる範囲のことを伝えた。理想を高く伝えると無理ををすると思い、前向きな気持ちを十分に受け止め話しをした。叱り方なども遠くから「ダメ」と一言だけだったので、子どもと視線を合わせ、何がいけないのかを伝えてあげることが大切だと話した。

相談者は、いつまでも赤ちゃんでいて欲しい思いがあるのか、自立をさせない生活をしてきた。子どもが自立していくことの大切さと、かかわり方を伝えることの難しさを感じた。要継続が必要だと思った。

相談者：2歳1ヶ月の子を持つ母親

< 訪問相談 1 回目 >

トイレを嫌がる

Q



トイレトレーニングについて聞きたいのですが、排尿の間隔は2時間くらいあるんですが、トイレをいやがって泣いてしまいます。親が行くときは平気なんです。どうしたらいいですか？

もう一つは、食事中に椅子に立ってしまい、叱っても言うことを聞きません。困っています。

A



トイレトレーニングは無理せず、もう少し暑くなったら、散歩の時など思い切って布パンツになってみると、着脱しやすく、失敗をおそれずトレーニングできるのではないのでしょうか。

食事中に椅子に立ってしまうのは、何か理由があるのかもしれませんがね。

< 経緯と助言 >

トイレトレーニングはじっくり取り組んでほしいと話しをした。排尿と排尿の間隔があるので、絵本が好きだと聞いたのでトイレ関連の絵本などを通して、トイレの仕方を知らせるなど、タイミングが合えば排尿につながると伝えた。どうして泣いているのかわからないので、子どもの好きな物をトイレの中に飾るなど、トイレに行ってみたくと思えるような工夫を勧めた。

食事時の様子を聞いてみると、食が細く野菜が苦手なことがわかり、食事に時間がかかり飽きてしまい椅子に立つのではないかと伝えた。量を少なくして、完食することを勧めた。

< 保育士の感想 >



相談者の表情が暗く、言葉を選びながら話をした。家の様子は、子どもがいるように思えないほど綺麗で、親がかなり几帳面だと感じられた。

子どもは相談中、親に抱っこしたままひと言も話さず、静かに待つことができ、かなり人見知りのようである。親子の様子を見ていると継続が必要であると思った。

< 訪問相談 2 回目 >

入浴時の排泄行為

Q



トイレトレーニングをはじめたら、排尿と排便の間隔が短くなってしまった。でも、日中は布パンツで失敗はありますが、頑張っています。困ったことに、入浴時お風呂場で排尿してしまうんです。

出そうな時に、長い時間便座に座らせているんですがいいのでしょうか？

A



便座にある程度座らせて、排泄がなかったら終わりにしてください。長い時間座っていると、遊びになったり、いやになってしまうかも知れませんが、気長にトレーニングしていきましょう。

お風呂での排尿はどう思われますかと、聞いてみると、「あまり好ましく思っていないと思っています。」と話していたので、習慣になる前にやめるようにしましょう。

< 経緯と助言 >

2 回目は、親子とのコミュニケーションがとれていたことで、親の笑顔も見られスムーズに話しをすることができた。子どもとかわり合うことができ、楽しく笑いが耐えにくいくらい仲良く遊ぶことできた。

リビングにおまるがあったので、排泄はトイレがいいのではと問いかけると、親も納得した。トイレの環境も変えて、親の努力と工夫が見られたので、頑張っていることをほめた。3 人でお風呂場に行き、「ここは何をしたらいいかな？」と子どもに聞き、入浴するところと確認して、排尿はトイレしようとして子どもに伝えた。トイレトレーニングは、根気よく諦めないで気楽に考えていきましょうと話した。

< 保育士の感想 >



親子とも以前に比べると明るくなった。子どもは特に慣れれば、言葉もはっきり話し質問するときちゃんと答え、笑顔でかわることができ信頼関係ができてよかった。

相談者もおとなしく、子どもとの接し方や言葉かけを増やすことを伝えた。

< 訪問相談 3回目 >

トイレトレーニング失敗

Q



トイレトレーニングもだいぶ成功するようになってきたのですが、家では失敗するのに、外出した時は失敗がありません。どうしてでしょうか？

A



外出した時は多少緊張しているから、慎重になっているのではないのでしょうか？

トイレは自分から行きますか？
まだ、誘って行くようであれば遊ぶ前にトイレに誘い、それから遊ぶようにすると、夢中になっても失敗が減るのではないのでしょうか。

< 経緯と助言 >

トイレに誘ってからお風呂に行くようにして、お風呂場の排尿は減ってきていることを聞いた。子どもに対する親のかかわり方が上手になってきた。排尿の失敗が増えるとトレーニングにいきまらざることを聞き、気長に取り組んでいくことが成功につながるのではないかと伝えた。

外出先で排尿が成功していることを聞き、友達とかかわって遊んだり、友達の様子を見ることも大切だと思い、親子が集まるような場所に足を運んでみてはどうかと勧めた。

< 保育士の感想 >



相談者の話しを聞くと真面目で、排泄を失敗するとトレーニングをやめようか、迷うことがあるように思えた。

子どもと一緒に遊んだ物を壁に貼ったりして、家の中の遊びが多く感じられ、公園に行ってもあまり他の人とかかわらないと話していたので、相談者自身も人見知りだったことがわかった。信頼関係を大切にしていきたいと思った。

< 訪問相談 4回目 >

トイレトレーニングの期間

Q



トイレトレーニングで、排便はトイレで済ませることができるようになって、失敗はありません。でも、排尿は時々失敗してしまいます。他の子と比べると時間がかかりすぎていませんか？いつになったら失敗がなくなるのでしょうか？

A



まだ、寒いのでトイレに行く回数も多いのではないのでしょうか？今は重ね着をしているので、もう少し暖かくなったら薄着になり、着脱もしやすく失敗も減ってくる

でしょう。

< 経緯と助言 >

トイレトレーニングに、時間がかかっていることを悩んでいたようで、今の状況をよく理解してもらい、保育園でも同年齢の子どもが遊びに夢中になっていたり、着脱の遅れで失敗することを伝えた。話しを聞き相談者は納得して、自分の子どもだけが失敗しているのではないことを知った。失敗することはいけないことだと、相談者自身が考えすぎている様子だったので、保育園の話をした。

この頃、子ども達が集まるような所に出かけて行くようにしていると聞き、たくさんの友達とかかわることは大切なことと話し、親子で外に出かけることを勧めた。

< まとめ >



相談者の気持ちの浮き沈みが、トイレトレーニングに長い時間をかけているように思うが、相談者は几帳面なので、自分の子だけがトイレトレーニングに時間がかかっていると思い、不安になっていたのではないかと思った。

子どもの良い所、相談者が子育てを頑張っていることをほめながら、自信が持てるように言葉かけをした。

相談者：11ヶ月の子を持つ母親

< 訪問相談 1 回目 >

卒乳の仕方

Q



もうすぐ1歳になりますが、離乳食から大人と同じ食事にどう変えていったらいいのでしょうか？食も細く、座って食事ができずうろうろして、手づかみで食べています。母乳も飲んでいますが、子どもが、スプーンを使って食べるのはいつごろからですか？

A



食事と母乳どちらが先ですか？できれば、食事をしてから母乳にすると、もう少し量が食べられるのではないのでしょうか。スプーンも、年齢にあった物を使いはじめてもいい時期ですね。

< 経緯と助言 >

子どもが母乳をほしがるとすぐにあげていたようで、ちょっとずつ飲んでいたので3食きちんと食事を食べていなかった。

1日の流れを聞き、子どもに合った生活の流れを相談者と考えた。

食事をする椅子が用意されていなかったの、年齢にあった椅子があれば、座って食事をする事ができると話した。

スプーンなども使いはじめは親が隣に座り、一緒に手を添えてあげてから、徐々に1人で食べられるようにしていきましようと言った。

< 保育士の感想 >



泣くとすぐに母乳を与えていたので、1日の回数が多く、食事が食べられないことがわかった。歯ブラシの習慣は、きちんとしていた。

「子どものために」という相談者の気持ちを配慮しつつ、これから卒乳に向かうことも大切だと思、生活のリズムの乱れを見直した。

< 訪問相談 2 回目 >

卒乳の修正方法

Q



卒乳が1日2回に減ったのに、突発性発疹になり食欲がなくなり、また母乳に戻ってしまいました。どう修正したらいいか悩んでいます。母乳の代わりに何か飲ませたいと思っているのですが、よくわかりません。教えてください。

ガス台やコンセントに興味をもって触るので叱るのですが、わざとやっているように思えるんです。

A



食事が食べられなくて母乳に戻ってしまいましたが、元気なら食事の後に母乳をあげて、回数を減らしていくように、はじめからやり直しましょう。

母乳の代わりに、牛乳だったら人肌くらいに温めて、フォローアップミルクも栄養価が高いのでお勧めしますが、どちらもスプーン一杯からはじめてください。

叱ったりすると、顔をみながらいたずらしていませんか？遊びになっていますね。

< 経緯と助言 >

病気で母乳に戻っていると聞き、訪問してみると、ぐずって自分から母乳を求めている姿が見られた。相談者がきちんと「やめよう」と子どもに伝えないと卒乳ができなくなってしまうことを伝え、どんな時に母乳を断ったらいいのかを一緒に考えた。

フォローアップミルクは、飲むだけでなくクッキーやホットケーキ・料理などにも使えることを知らせた。

いたずらする姿を見ていると、相談者の顔を見ながらしているので、遊びでなく危険な場所であることを伝えるように話した。

< 保育士の感想 >



相談者が卒乳を諦めているように思えた。言葉では「やめようと思っている。」と話してくれているが、なかなか実行できていないので、相談者の卒乳のペースを見守っていきたいと思った。子どもと向き合い、伝え方を身につけてもらいたいと思った。

< 訪問相談 3回目 >

母乳がやめられない



Q 母乳の回数も減ってきたのに、先日風邪をひいて食欲がなくなり、つつい母乳をあげてしまい卒乳に向かえなくなっています。でも、今月でやめようと思ってるんですが自信がありません。

フォローアップミルクは飲めませんが、料理に使えることを教わり工夫して作っています。

スプーンを使っていたのですが、この頃お箸に興味を持って補助つきのお箸を使っているのですが、早いでしょうか？



A 卒乳という目標がありますから、回数を減らしながら頑張ってみてください。

自分からお箸を使いたいという気持ちを大切に、食べるのに時間がかかるといいますから、時間を決めてお箸が嫌いにならないように気をつけてください。

< 経緯と助言 >

電話では、自信なく卒乳に取り組んでいくように話していたが、訪問してみると寝る前の1回だけになっていたのが、頑張っている姿がみられた。しかし、夜中ぐずると母乳をあげてしまうと聞き、口寂しいのではないかと思い、声をかけて寝せてみてはどうかと話しをした。

お箸は時間を決めて使うようにして、熱心にお箸を使っているようだったので、しばらく補助つきのお箸で練習するように勧めた。

食事のマナーについて両親の意見が合わず、子どもにとって1番よい方法を考えて検討してみた。

訪問中に子どもが1人で靴下を脱ぐと、相談者が寒くないのか心配だと話していたので、子どもがどうして靴下を脱いだのかを考えてもらった。靴下を上手に脱いだので、着脱の自立を話し、やり方や言葉かけなどを伝えた。

< 保育士の感想 >



卒乳するのに何度もやり直しになってしまったが、早く卒乳したほうがいと相談者も思っていることがわかり、努力していることがわかった。

相談者に、子どもの靴下脱ぎが着脱の一步であることを知らせると、感心するばかりで、日々子どもは成長していることを話し、自立させていくのが大きな目標であることを伝えた。両親は子育てにとても熱心だと思った。

< 電話相談 4回目 >

卒乳完了



Q 報告があります。卒乳が完了しました。先日訪問していただいた時に、アドバイスを聞いて実行してみました。2、3日夜中メソメソ泣いていましたが、4日目位から諦めてしまったのか、夜中ぐっすり寝ることができました。次の日からひと言も母乳が欲しいと言いませんでした。夜中ぐっすり寝るようになったら、朝も早起きになりました。1歳6ヶ月で卒乳、長かったです。何度も失敗したり、挫けそうになった時にアドバイスや励ましの言葉をかけていただいてありがとうございました。

報告があります。卒乳が完了しました。先日訪問していただいた時に、アドバイスを聞いて実行してみました。2、3日夜中メソメソ泣いていましたが、4日目位から諦めてしまったのか、夜中ぐっすり寝ることができました。次の日からひと言も母乳が欲しいと言いませんでした。夜中ぐっすり寝るようになったら、朝も早起きになりました。1歳6ヶ月で卒乳、長かったです。何度も失敗したり、挫けそうになった時にアドバイスや励ましの言葉をかけていただいてありがとうございました。



A 卒乳おめでとございます。早かったですね。相談者の方が何度挫けそうになっても、卒乳を諦めないでがんばったからですよ。そして、お子さんもがんばりました。

目標達成ですね。次の目標は何ですか？2人なら大丈夫です。じっくり時間をかけてがんばってください。また、不安や悩み事があったらお電話ください。お待ちしております。

< 経緯と助言 >

卒乳に向けて取り組んでいると、病気になってまた元通りになってしまい、卒乳が遠くなることのくり返しが何度もあった。相談者が卒乳を諦めかけている時もあり、見守る時期もあった。しかし、相談者の本心は早く卒乳したいという思いがあることを感じていた。

< まとめ >



相談者が早く卒乳したいという思いはいつも感じていたが、何度も挫折しながら目標を達成することができて素晴らしいと思った。

相談者：3歳の子を持つ母親

< 訪問相談 1 回目 >

生活リズムの乱れ

Q



3歳の男の子なのですが、外遊びに出たがらず家の中で空き箱作りが好きで、だらだらと過ごしているのですが、夜寝るのも遅くなって困っています。公園に行っても母親からはなれず、友達と遊ぼうとしないので心配になります。

親が子どもに対して厳しい言葉を言ったり、イライラして子どもに暴言をはいてしまうことがあり、子育てをサポートをお願いしようか迷っています。

A



近所に遊べるお友達はいませんか？午前中だけでも、公園や散歩などで体を動かして遊ぶと、早く寝れるかもしれませんね。外遊びが楽しいと思えるきっかけが何かあるといいですね。

< 経緯と助言 >

訪問してみると生活のリズムが乱れており、年齢も大きいので、時計などを使い約束を決めて生活のリズムを整えていくように勧めた。戸外で、親子で一緒に体を動かして遊んでみてはどうかと勧めたが、あまりいい返事が返ってこなかった。

訪問の時に1人が相談者と話し、もう1人が子どもと遊んでいる姿を見て「他の人と遊べるんだ。こんな姿見たことがない。」と子どもが楽しく遊ぶ姿を見て感動していた。

訪問中も相談者が、子どもに厳しい言葉を投げかけていたので、叱る前に子どもに問いかけてみてはどうかと話しをした。神経質そうだが部屋は散らかっていた。

< 保育士の感想 >



相談者は一生懸命子どもに接しているつもりだが、子どもにとっては満足が得られない空振り状態で、遊んでやっているという気持ちが強いように思えた。

相談者自信も、友達とのかかわりを苦手としているので、子どもは相談者の様子を見ていて側を離れず、遊ぼうとしなかったのではないかと思った。

言葉で伝えることの難しさを感じたが、継続する必要がある、次回の訪問は戸外に誘ってみようと思っている。

< 訪問相談 2 回目 >

つい叱ってしまう

Q



以前訪問に来てもらった時に、子どもが他の人と楽しく遊ぶ姿を見て、思い切って子育てサポートに電話をすることができました。今は週1回来てもらっています。はじめは、子どももおとなしかったのですが、今は慣れてきて、サポートの日を楽しみに待っています。

自分自身がちょっとしたことで、イライラして子どもを感情的に叱ってしまい、後で反省することが多くて悩んでいます。

A



子育てサポートに電話をかけることができ、よかったですね。「思いきって」は大事ですから、頑張りましたね。

子どもに対して、言い方や声かけの仕方を変えてみてはどうでしょうか。相談者が叱る前に、子どもに理由を聞いてみるのもいいかも知れませんね。

訪問の時、天気が良かったらみんなで公園に散歩にでかけてみませんか？

< 経緯と助言 >

妹も歩くようになり目が離せず、1人ずつ動かれて相談者もバタバタしてしまい、ついつい口を出したり叱ってしまうと話していたので、子どもを信じてまかせてみてはどうかと話しをした。

親子で話していると子どもがチックをはじめたので、話しを聞くと、この頃話す時に目をパチパチすることを聞き、相談者の話し方が子どもの心に響いていることを知らせ、相談者から話すのではなく、子どもから話したがるような雰囲気づくりを勧めた。

約束通り公園に散歩に出かけた。子どもの顔が生き生きして、自然に触れながら一緒に遊んでいると話しはずんだ。子どもが得意になって話している姿をみて、相談者の表情も明るくなった。

< 保育士の感想 >



以前チックは子どもにみられなかった。時々爪かみもあったが、言葉をかけて話しに集中させた。相談者が外に出たがらず、子どもは外が好きだと思ったら、ストレスから爪かみなどが影響されているのではないかと思った。

相談者も慣れてきて、徐々に相談者から話しをしてくれるようになり、子どもをほめられないと聞き、ほめることの難しさや子どもとのかかわり方の難しさや、親子のかかわりが必要だと感じた。

< 訪問相談 3回目 >

復帰の不安

Q



相談者自身の仕事復帰も心配ですし、子ども2人を保育園に送り仕事に行くことを考えると不安でしかたがないんです。保育園は申請中で、2人同じ保育園だとい

のですが、もうすぐ決まると思います。

妹から目が離せず、上の子のことをかまっていられません。本人はじっくり型なのでずっと1ヶ所で遊んでいます、気になります。

A



保育園が決まると安心ですね。あれもこれもと考えると大変ですから、1つずつあせらず解決していきましょう。

また、天気良かったら散歩しながら話しましょうか。

< 経緯と助言 >

思っていた以上に、相談者が悩んでいることを知った。不安は、子どもを起こして保育園に連れて行き、出勤するという毎日のくり返しを心配していた。保育園に通うまでまだ時間があるので、朝起きる時間を決めて、食事をして排便を済ませるまでの練習をすると、朝の流れができるので勧めた。必ず朝食を食べて行くようにと伝えた。子どもも慣れるまで時間がかかることを話し、できたことをほめながら練習するように話した。

相談者の不安や戸惑いを聞き、自信がもてるような言葉かけをしていくうちに、笑顔もみられるようになった。

子どもとロープ遊びをした。ロープを木にぐるぐる巻きにしたり、ジグザグに縛りトンネルを作ってみんなでくぐり、ジャンケンしたり、笑い声が聞こえるくらい楽しく遊ぶことができた。相談者に子どもと一緒に遊ぶことの大切さを伝えた。

< まとめ >



前回の訪問で散歩に出かけてから、ただ歩くのではなく、いろいろな所に目が向くようになり、子どもと外にでることが増えたことを知り、安堵した。

今回は、子どもより相談者を優先した。

1年半ぶりの仕事復帰はだいぶ不安なようで、何度もくり返し話していたので、相談者を勇気づけた。

2人は同じ保育園に通え、上の子は友達と遊べることに給食が楽しみで、お昼寝がイヤだと話してくれた。相談者は上の子を心配していた。チックは、以前に比べるとだいぶ減り、爪かみは1度もなかった。

相談者自身が心配なので、引き続き連絡がとれることを話した。

相談者：2歳3ヶ月の子を持つ母親

< 訪問相談 1 回目 >

言葉がなかなか出ない

Q



引越してきて1年半になりますが、相談できる友達はいません。どうしても気になっていることは2歳3ヶ月になる子どもなんです。が、他の子と比べると落ち着きがなく、言葉がなかなか出てこないように思えるので、心配です。トイレトレーニングのやり方もよくわかりません。どうしたらいいか教えてください。それから、食事中歩き回っていて困っています。たくさんお話しを聞きたいので、訪問していただけないか？

A



食事中、どんな時に落ち着きがないと思われますか？実際お子さんとお会いしてみないとお答えすることはたいへん難しいです。

トイレトレーニングは、排尿と排尿の間隔が1時間以上空いていれば、そろそろトレーニングに取り組んでも大丈夫かと思えます。食事は椅子に座って食べていますか？できれば、椅子に座って食べることをお勧めします。

< 経緯と助言 >

言葉の発達については、判断することが難しいので、本当に心配ならば専門機関に相談するのが一番いいと話しをした。

食事は座ることなく、立って食べていたことがわかり、子ども用の椅子に座りテーブルで食事することを勧めた。子どものためにも約束を1つずつして、食事の時どうしたらいいかを話していくように伝えた。

子どもがたくさん集まる場所に行き、他の子と比べるのではなく、何に興味を持って遊ぶのかを知ることが大切で、ひとり遊びが上手になると、回りの友達も見えてきますから、少しずつ友達と遊べるようになるという段階があることを知らせた。

< 保育士の感想 >



相談者は悲観的になっていて、話しを聞いてもらいたくて次から次へと話しが変わり、1つの問題に答えると、すぐ次はと話しかけてきたので、相談者自身が本当に理解しているのが不安になった。

子どもに振り回されているように見え、子どもの後ろばかり追いかけていて、教えること伝えることをあまりしていないと感じ、継続が必要だと思った。

会話中、相談者と目が合わなかった。

< 訪問相談 2 回目 >

食事中落ち着かない

Q



椅子に座って食事をするようになったのですが、すぐに歩き回って落ち着きがなく、これでいいのかと考えてしまいます。言葉が少しずつでてきて、話しがわかるようになったが、他の子と一緒に遊ぶことが難しそうで、いつも自分の好きな所に行って遊び、次から次へと移りじっと遊んでいることができません。

A



食べる時だけでも座っていることができれば、徐々に長い時間座れるようになると思いますよ。たとえば、食事の時の挨拶をするとはじまりと終わりがわかりますから、座っている時間を長くしていくことができます。座っていることができたなら、ほめてあげましょう。

子どもは自分の興味がある物で遊ぶので、あまり他の子と比べないで、よくお子さんをみてあげてください。

< 経緯と助言 >

食事の挨拶は椅子に座ったらすぐに言うのか、迷っていた。椅子に座って食べる前に待ち、食事を並べ「いただきます」をしてから食べると、自然に長く椅子に座っていることになり、落ち着いて座れることを知らせた。相談者が挨拶をすれば、真似をして覚えていくことを話した。

相談者が子どもに対して、言葉をかけるのではなく、一方的に全部話してしまっているのが、子どもはうなずくだけになり、話しをする必要がなくなってしまっていた。子どもから話しを聞く姿勢を取り、話すまで待つことも大切だと伝えた。

子どもは物の名前や言葉が理解できていなかった。相談者に、一緒に行動して物の名前や何に使うかなどを子どもに話しをしないと、物と名前が一致していないことを知らせた。

ズボンの着脱ができていたので、親子をほめて次は靴下を頑張るように話した。

< 保育士の感想 >



相談者の思い込みや理想を受け止めながら、今現在の子ども状況の知らせ、理解してもらい、今後の課題を話し目標をもって生活をしていけるように話した。

指しゃぶりが気になる。会話をしているけど、相談者と目が合わない。子どものことは時々見ていたが目を合わせているのか疑問である。

< 訪問相談 3 回目 >

指しゃぶり

Q



先日の訪問でアドバイスしていただいたように、椅子に座ってから食事の用意をするようにしました。挨拶も言葉はできませんが、動作を真似してするようになって、落ち着いて食事をする事ができるようになりました。

名前を呼ぶと「はい」と返事ができるようになりましたが、本を見ている時に指しゃぶりをしています。やめさせたほうがいいですか？

A



食べている時だけでなく、徐々に長い時間座っていられるようになりましたね。挨拶もくり返しのなかで、語尾がでてくると段々言葉らしくなってきますので、続けてください。相談者ばかりでなく、お子さんに挨拶を言ってもらえるのもいいですよ。

遊んでいる時に指しゃぶりをしていますか？遊びに夢中になっている時はしていないと思いますので、お子さんを良く見ていてください。

< 経緯と助言 >

食事をする時も椅子に座っている時間が長くなってきたと聞き、言葉の理解もくり返しのなかで、覚えていくことを話した。

話す言葉が少しずつ増えてきていた。相談者も一緒にかかわって遊ぶようになり、子どもも喜んでた。2人の表情が明るくなってきた。相談者が、子どもに話しかけることで、子どもが言葉を覚えていくことを伝えた。オウム返しをくり返しながら場面の言葉を覚えていくことも話した。できないことができた時はほめてあげることを勧めた。

指しゃぶりは、遊べるようになると夢中になって忘れてしまうようになり、寝い時にはするかもしれませんが、話しがわかるようになるとやめることができるかと話しをした。

一時保育に子どもを預けたいと話していたので、返事ができるようになり、相談者も子育てに少し自信がもてるようになってきた。

< 保育士の感想 >



相談者に笑顔が見られるようになってきたが、会話をしていてもなかなか目があわないのは、自信がないから顔が見られないのだろうか？

子どもを通して、相談者に自信をつけさせて次のステップに向かえるように課題を話し行動できるように言葉かけをした。

思い込みがあるので、十分言葉を選んで話しをした。

< 訪問相談 4 回目 >

一人遊びが多い

Q



一時保育に預けていて、子どもが友達と一緒に遊べないで1人で遊んでいます。言葉があまりしゃべれないからでしょうか？友達と遊ぶのは難しいのでしょうか？

A



保育園で楽しく遊べる事が1番だと思いますよ。自分の好きな遊びができて、友達とおもちゃの貸し借りができるようになっていきます。まだ、お子さんは保育園のおもちゃでたくさん遊びたい時なんですよ。

< 経緯と助言 >

食事の様子を聞くと言葉はでていないが、声を出して挨拶をして食べていることを知り継続していくことを勧めた。

迎えに行くと子どもはいつも1人で遊んでいて、友達と一緒に遊んでいなかった。相談者はショックだったようで、どうして1人で遊んでいるのか心配になった。言葉の発達が遅れているから、みんなが遊んでくれないと相談者は思っているようだった。1人遊びが十分できるようになってから、友達とのかかわりがもてるようになることを話した。家でも、相談者とおもちゃの貸し借りに使う言葉を練習するように勧めた。

< まとめ >



相談者の理想と現実のギャップが多くみえられることがあり、現実の厳しさを感じ、いろいろな経験をすることができた。

相談者とやっと思いが合って会話をすることができるようになったので、相談者に子どもの顔を見ながら話しをすることが大切だと伝えた。人と話しをするのが苦手だった相談者も、1対1だったからいろいろな話しを聞いてもらえてよかったと話していた。転勤により訪問終了になる。

相談者：1歳1ヶ月の子を持つ母親

< 訪問相談 1 回目 >

離乳食の分量

Q



1歳ですが、離乳食をいくら食べても満腹にならないようで、ご飯はお茶碗一杯でも物足りなく、ぐずってしまうのでおかわりをあげてしまいます。歯は2本生えています。

A



できれば量を決めて食べるようにするいいですね。歯が2本でも噛む力がありますから大丈夫ですよ。

< 経緯と助言 >

つぶし食又はきざみ食であることを知った。野菜などの大きさを知らせ、柔らかく形のある物を噛んで食べるように勧めた。1歳になったので、歯が2本でもつぶせる程度の大きさで、柔らかい物であれば噛むことによって満足感が味わえるようになると伝えた。

実際に食べている様子を見せようと、パクリと口に入れ噛まずに飲み込んでいて親も驚いていた。手づかみで食べていた。子どもだけで食べさせるのではなく、一緒に楽しく食事をするので、真似をしながらいろいろなことを覚えていくことを伝えた。スプーンを使って食べることも勧めた。

< 保育士の感想 >



食べている様子を見ることも少なく、騒いだりすると、おかわりをあげていたことがわかった。食事と摂食についての話をした。相談では、食べる量についてだったが、年齢に合った食事ではなかったので、子どもは物足りなくなっていた。

子どもの発達や生活の支援ばかりではなく、相談者の気づかない問題の発見や不安を減らすためにも訪問が必要だと思いました。

< 訪問相談 2 回目 >

けじめの教え方

Q



スプーンを持たせて食べていますが、少し食べるとスプーンを放り投げてしまい左手で食べ物をぐちゃぐちゃにして遊でしまいます。親と一緒に手を添えてスプーンで食べさせても左手で遊んでしまいます。どうしたらいいんでしょうか？

公園でいろいろな物を口に入れたり、砂場の砂を自分の頭にかけて目に入って泣いても、「ダメ」と何度言ってもやめないんです。どうしたらいいんでしょうか？

A



実際に見てみないと、食べている様子や公園の遊びも、はっきりしたことは言えませんので、もし、よろしければ一緒に見学させていただければ、具体的な助言ができるかと思しますので、いかがでしょうか。

< 経緯と助言 >

公園に行くときに手をつないで歩いていなかったため、危険防止のために手をつなぐように話をした。砂遊びをしたとき注意すると、なかなか目が合わず、どうしていけないのかをきちんと向き合って話をした。

親が子どもにきちんとした言葉で伝えないと、子どもには伝わらないことを知らせた。子どもは自分の思いのままに公園を歩き回っていたが、親を確認しながら遊んでいたため、相談者にも目を離さないようにと伝えた。親が「ダメ」という言葉を多く使っていたため、何が「ダメ」なのかを子どもと目を合わせて伝えていくことが大切だと話をした。

< 保育士の感想 >



親が子どもに振り回されていることに気付かないでいた。子どもにけじめを教えることができず、子どもも学べない状況にあり、大きくなれば何でも1人でできると思い込んでいた。子どもに対する言葉かけがよくわからないのだと思い「ママはどこ？」と子どもに聞いてもママを認識していなかった。今後も継続が必要だと思った。

< 電話相談 3 回目 >

食事の様子

Q



先日訪問していただいた時にアドバイスを受けて、その通りにやってみたらできました。公園まで手をつないで歩いていくこと、砂遊びで自分の頭に砂をかけて遊ぶようになったこと。何度言っても

やめなかったのに、見ていただいたら子どもがきちんとできました。自分の伝え方が子どもには伝わっていなかったことがわかり、訪問して見ていただいてよかったです。

食事の様子もアドバイスをいただきたいのですが、実家に1ヶ月帰りますので、帰ってきた時には、また相談をお願いします。

A



できないことが、できるようになってよかったですね。助言をただけで、すぐに上手に関われたのは、普段の親子の関わりが来ていた証拠ではないでしょうか。

実家に帰ったら人気者になってしまいますね。期待して待っています。

< 経緯と助言 >

子どもは相談者以外から注意を受けたことがなく、正面から向き合い話しをしたので、子どもも真剣に話しを聞いたのではないかと思います。

食事は手づかみで、ヨーグルトやスープはスプーンを使うようになったが、他はなかなか使えないということで、実家に帰って助けてもらえる人がいるから、物を使って食べられるようになることを期待したいと思った。

相談者が自分はかなり叱って育てていると話してくれたので、ほめることも大切なことであると伝えた。

< 保育士の感想 >



相談者は第三者的な人に助言され、子どもが変わったことで、自分の子育てに少々自信を無くしているのか迷っているのか、他の人を頼りにしているように思えた。

帰って来てからの報告を待ちたいと思った。

< 訪問相談 4 回目 >

食事の仕方の悩み

Q



実家に1ヶ月帰ってスプーンやフォークを持たせて試してみましたが、食事の様子がまったく変わりません。ぐちゃぐちゃと手でいたずらをしながら食べています。

どうしたらいいかわかりません。

A



実家に帰っても変わらなかったですか。相談者の方は食事のことが気になるんですね。食事の仕方が上手になるように、保育園に来て同年齢の子の、食事の様子を見学してみませんか？

< 経緯と助言 >

保育園に来てもらい、上手に食べている同年齢の子どもの姿を見て、自分の子と比べてショックを受けないか心配だったが、見学して相談者から勉強になったと話しを聞き安心した。椅子に座り食事をしている様子を見てもらい、相談者の子どもできると伝えた。

お皿に手を添えて、スプーンで食べている姿を見て驚いたが、相談者から今までの考え方が変わりましたと伝えてくれました。

相談者がこのままではいけないと認め、自分なりの思いや考えがあると思い、見守ることにした。

動物の名前や遊んでいる時に相談者を意識しながら、声をだしたり言葉をかけてきたりと大きな成長を見ることができた。

< まとめ >



子どもより相談者に他の子の姿を見てもらい、今までの様子を振り返って、自分の子どももできることを知ってもらいたかった。

以前、子どもに対しての言葉かけがわからないと話していたので、アドバイスをした。子どもが話しを聞くようになり、顔を見ながら伝えていて、相談者が子育てに前向きに取り組んできたことがわかった。

相談者：11ヶ月の子を持つ母親

< 訪問相談 1 回目 >

離乳食から大人食へ

Q  11ヶ月になります。そろそろ離乳食から大人食にしたいと思っていますが、時期や進め方がわからないので、教えてください。
子どもが夜中起きてミルクを飲んでいるのですが、本などを見ると今の時期は、夜中飲まないと書いてあったので心配です。子どもとのかかわり方がよくわかりません。

A  離乳食も野菜など形があって柔らかい物や、お粥よりご飯の粒がわかるくらい柔らかくして、噛むことを意識していくようにしましょう。

夜は何度目をさまして、夜中何回起きて飲みますか？1日午睡は何回していますか？訪問して詳しくお話しを聞かせてください。

< 経緯と助言 >

訪問すると、相談者から相談する人がなく、迷いながら思い切って電話をしてよかったと聞き、疑問や不安に思っていることを1つ1つわかりやすく助言した。

離乳食の話しを聞くと、ほとんどレトルト食品か市販の物ばかりで、作り方がよくわからなかったことを話してくれました。電話で聞いたことを試してみたら、よく噛んで食べていたと聞き、食事を作る時の工夫やアドバイスをした。

午睡が1日2回だったので、午前中たくさん遊び生活のリズムを変えて、午睡を1回にすることによって、夜中起きなくなるのではないかと伝えた。

つまり立ちをしていたので、部屋の危険防止を勧めた。

< 保育士の感想 >

 相談者の家庭の事情を知り、相談する人がいないことも含め、子育てに関することを詳しく説明した。自分のやり方は本を見たりしながらだったが、何をどう工夫したらいいのかわからず戸惑っている様子がわかった。もうすぐ1歳になるのに、食事の内容や生活面が年齢に合っていなかった。

相談者はまじめに、子育てに取り組んでいたが、けじめをつけることや子どもに対しての言葉かけがなく、見守りだけだった。生活の流れの中で、子どもに言葉かけをすることが1番大切だと伝えた。

< 訪問相談 2 回目 >

卒乳後の食事方法

Q  卒乳して哺乳ビンでミルクを飲んでいますが、いつ頃まで哺乳ビンを使ってもいいのでしょうか？フォークなどの使い方や使う時期はいつ頃ですか？
他に細かいことを知りたいので、訪問してほしいです。

A  1歳4ヶ月になりましたので、そろそろ哺乳ビンの代用をストローやコップなどに変えてみてはいかがでしょうか？今からでもフォークやスプーンなどを使って、食事をすることを覚えていくといいですね。

< 経緯と助言 >

実際に食事の様子を見せてもらうと、親子で向かい合って、赤ちゃんに食べさせるような食事の仕方をしていたので、テーブルに正面を向いて座わせ、ひとりで食べられるように変えた。手で食べており、すぐに遊びになってしまった。バナナを使ってフォークの持たせ方、子どもが自分からフォークを持って、口に入れて食べられるように指導をした。

子どもがひとりでやればできることを知り、相談者は感動していた。相談者は、自分が子どもに年齢に合っていない扱いをしていたことに対して、悪いことをしていたと話していたので、これからは子どもが自立していくことを目標に、親子で一緒に取り組んで、子育てを楽しんでほしいと励ました。

< まとめ >

 相談者が子どもに、食事を食べさせなくてはいけないという思いと、子ども自身が食べることをしていなかったことで、相談者の考え方を変えることによって、お互いの成長がみえてくることを知らせ、やり方を伝え続けていくことを勧めた。

相談者は以前に比べ、子どもに対して言葉かけをしていたので、子どもがいろいろな言葉を覚えていくうえで、重要な役割をしていることを話した。

子どもとの遊びでは、ずっと側についていなくても、ひとり遊びも大切なので、時々声をかけたり、遊んでいる姿を見ることも大切だと伝えた。

赤ちゃんが使うおもちゃがそのまま置いてあったので、相談者に問いかけた。子どもに対しての気づきもして欲しいと思った。

相談者：2歳9ヶ月の子を持つ母親

< 訪問相談 1 回目 >

成長スピードの悩み

Q  幼稚園の入園申し込みに行ったら、「言葉等の遅れがあるかもしれないので、専門機関に行ってもらいかも知れません。」と言われ、相談者も自分の子が他の子より、いろいろな面で成長が遅いことは認めています。いざ他人に言われるとショックです。訪ねていただいて、子どもを見てもらいたいのですが。幼稚園に行くことを決めていたので悩んでいます。

A  相談者の方がお子さんを理解しているうえで、はじめてご家族以外の方に言われてショックだったことと思います。私達も専門家ではないので、相談者の方の期待に答えられるかわかりませんが、お子さんにお会いしてお話を聞かせていただきたいと思います。

< 経緯と助言 >

幼稚園を選んだのは、「近所で同じマンションの子も数名行くので、一緒に通わせたいと思っ希望した。」と話してくれた。子どもも幼稚園バスを見て「乗りたい。行きたい。」と言っていると聞き、幼稚園に期待をもっていることを知った。

言葉がはっきりしている時もあれば、早口で話しているので聞き取りにくい時もあり、目は合うが早口で話すため、相手に自分の思いが伝わらず、もどかしさがあるように思えた。ゆっくり話すことを子どもに伝えた。

衣服の着脱もできておらず、少しずつ子どもがひとりのできるようになると、幼稚園で困らずに過ごせることを伝えた。2歳9ヶ月になるが、トイレトレーニング中で、トレーニング用の紙オムツだったので、布パンツを勧めた。

3歳児健診を目標に、子どもがひとりのできることを増やしてあげることが、大切だと相談者に伝えた。幼稚園を決めて申し込みに行かれたので、ご家族で話し合っ決めてもらうようにした。

< 保育士の感想 >

 相談者が不安や疑問に思っていることや自分の思いを聞いてもらえて、少し気持ちが楽になったと話してくれた。相談者はハキハキとしている。しかし、神経質そうに見えた。

子どもが経験不足なのか、問いかけに返答がなく、相談者とのコミュニケーションがうまくとれているのが気になった。1歳6ヶ月まで母乳のみで、すぐに普通食を食べさせていたことを知り驚いた。

3歳児健診までに、子どもの気になることや聞きたいことがあれば、メモをしておくことと相談しやすくなることを話した。

< 訪問相談 2 回目 >

相談者の焦り

Q  3歳児健診に行って、思っていることを聞くことができました。「特に問題はない。」と言われほっとしています。「幼稚園に1ヶ月くらい通ってから何か気になることがあれば相談してください。」と言われました。
トイレトレーニングがまだできていません。いけないと思っいても、命令口調で叱ってしまうことが多く、なかなかうまくトレーニングが進みません。何かいい方法はないでしょうか？

A  相談者の方が1番不安に思っいたことが、解決できてよかったですね。幼稚園に通うと、はじめは慣れない環境に戸惑ったり、友達の名前もよくわからない中で過ごしますから、お子さんの様子をよく見てあげてください。

トイレトレーニングで失敗すると叱ってしまうのですか？それとも、トイレに行くことを命令してしまうのでしょうか？相談者の方が焦る気持ちはわかりますが、少しトレーニングを休憩してもいいのではないのでしょうか？

< 経緯と助言 >

相談者からトイレトレーニングの話しを聞くと、便座に座って排尿させていると聞き、男の子なので立っして試みてはどうかと勧めた。踏み台もあると知った。

他の子と比べると全てにおいて、ゆっくり成長しているから、そのうちみんなと同じになるだろうと話していたので、相談者に考えを変えてもらい、くり返しや積み重ねによって成長していくことを話した。

子どもが「抱っこして。ちょちょやっ。」など要求してきたので、愛情不足が感じられた。じっくり子どもとかかわれば、子どもが理解していることもたくさんあるので、妹が寝ている時に、1対1で一緒に遊んでみてはどうかと相談者に話しをした。

< まとめ >

 相談者から「子どもとのコミュニケーションをとることがあまり好きではない。」と伝えられた。言葉を選びながらいろいろな事例を話してみた。相談者が何に困っているのかを聞いたり、子どもに興味を持ってもらえるように、同じ目線で話しをした。

幼稚園に行くまでに、トイレトレーニングが完了していないことの心配より、幼稚園におまかせしたい気持ちが感じられた。

相談者が心配なので、引き続き連絡がとれることを話した。

保育士訪問事業を終えて — おやこの自立 —



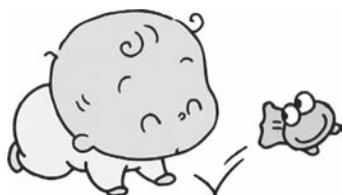
保育士訪問事業の目的は、育児の相談を通じ、相談者が“子育てを楽しく感じてもらえるようにする”ことを狙いとしています。

相談者が何に行き詰っているか、何を求めて電話をかけてきてくれたのかを相手の立場になり聞き入れ、場合によっては家庭の相談など実体験を元に助言させていただきました。始めは相談者宅へ伺うまでは、相談を受ける側もとても緊張していましたが、笑顔で玄関を開けると「まっていました！」という言葉とともに出迎えてくれました。そして、一度話し始めると本題の悩みを私達に打ち明けてもらい、子どもと遊びながら普段の様子を聞きました。ここからが保育士の腕の見せ所と思い、実際に子どもとの関わり（褒め方・遊び方・言い聞かせ方・視線の高さ等）を目の前で行いました。すると、普段、素直に言う事を聞かない子が簡単に聞けるようになった事実を母親が感激し、勉強になったことを話してくれました。こうして相談者と少しずつ信頼関係を築き、子育ては焦らずゆっくりと自分のペースでいい事を伝えると、安心した表情をみせてくれました。

この事業の最大のポイントは、2回目以降の“継続して行う相談”にあります。2回目からの相談は、こちら側から電話でその後の様子を聞き、上手く子育てが進んでいるかアドバイスし、大概は変化（アクション）が見られ、それが具体的な悩み解決へと繋がります。ここまで来ると、相談者の顔が自然に笑顔となり、子育てに「自信」というゆとりがもてるようになります。

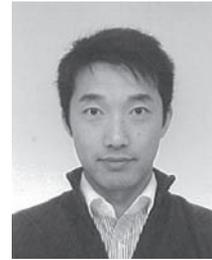
このように“親の悩みは子どもの悩み、子どもの悩みは親の悩み”の様の一つの悩みから子どもとの絆を深めるチャンスになっていることを気づいてもらえたのではないのでしょうか。

今回改めて感じたのは、子育ての相談とは、待ち受けるものではなく“どうですか”と積極的に手を差し伸べ、相談するきっかけを作ることが重要だと思いました。今後も子育て相談員として一人一人の貴重な相談を大切に、楽しい子育てライフに微力ながら貢献できれば幸いです。相談してくださった相談者の皆様ありがとうございました。



子育て支援アウトリーチ型事業
子育て相談員
保育士 石井 ひとみ・澤辺 順子

おわりに



今回、保育士訪問事業を通じて改めて感じたのが“量より質”という福祉の原点でした。

相談者のほとんどが核家族の方で、子を持つ親ならば誰もが体験する子育ての悩みを、核家族の保護者が一人で抱え込んでしまい、育児不安に陥ってしまうことが目立ちました。本来なら祖父母や親戚、その他近隣の育児経験者に相談することができれば解決できる悩みもできないでいました。

現在、全国に子育て支援の拠点事業が広がり、子育ての“つどい”とされる事業（集合型）も普及しはじめましたが、そのような場所に何らかの事情で今一步踏み出せない保護者を対象とした子育て支援事業の展開は、まだまだ足りないのが現状です。

1対1の訪問相談では、子育て全般の悩みはもちろんですが、親業としての理解や家庭の悩み等も受け止め、経験者からの助言を伝える事で、相談者が育児に対して前向きに考えられるようになります。また、継続的に相談者と連絡を交わし、信頼関係を少しずつ築くことで、安心して子育てすることができるのではないかと思います。子育ての悩みは、地域の悩み、地域の悩みは国の悩みとは言い過ぎですが、微力ながらこの事業が「地域の子育て力」の底上げが少しでもできれば幸いです。

最後に本記録誌は、訪問相談の記録をまとめたものになります。3回から4回と継続して相談者と関わる事で、保護者自身と子どもが少しずつ変わっていく様子等が分かるように記録しました。勇気をだして相談の声をあげた貴重な1件1件を今後の地域支援の一助にさせていただきたいと思います。今後、増加傾向にある子育ての孤立や育児不安の軽減、児童虐待予防の早期発見等につなげられることを願い、本事業の結びといたします。

今回、つくば市をはじめ、茨城県社会福祉協議会やその他関係機関のご協力により、本事業が実施できました事を心より感謝申し上げます。



子育て支援アウトリーチ型事業実行委員
フラワーチャイルド保育園
園長 古谷野 好栄

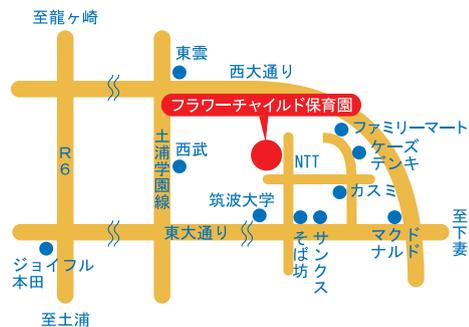
私たちは、いつでも
あなたの相談をお待ちしております



社会福祉法人 花畑福祉会 フラワーチャイルド保育園は、
平成20年度に、茨城県福祉サービス第三者評価を受審して
います。

〈フラワーチャイルド保育園 事業概要〉

- 定員：60名(産休明け～就学前まで)
 - 職員：21名(6クラス)
- 〈特別保育事業〉
- 一時預かり事業
 - 地域子育て支援事業
 - 食育推進事業



当園の子育て支援情報につながります ▲

〒300-3261 茨城県つくば市花畑1丁目9番地2
電話 029-864-6464 HP <http://www.flower-child.jp>
〈姉妹法人ホームページ〉 <http://www7.ocn.ne.jp/~hoshiyo/>